

平成28年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成29年7月 3日(月) 午後3時30分～午後5時30分

第2回 平成29年7月 4日(火) 午後3時30分～午後5時30分

第3回 平成29年7月31日(月) 午後1時30分～午後3時30分

上田市教育委員会

目 次

I 趣旨		1
II 上田市教育行政評価懇話会		1
III 評価の方法		2
IV 評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
① 学力の定着・向上 「(仮称)私の家庭学習ノート」作成	学校教育課	3
② 英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実	学校教育課	4
③ 特別な支援を要する児童生徒への支援	学校教育課	5
④ 地域とともにある学校づくり	学校教育課 生涯学習・文化財課	6
⑤ 食育の推進・充実に向けた環境の整備	教育総務課	8
⑥ 放課後児童対策の充実	学校教育課	9
2 学校施設のあり方の検討と計画的な改築・改修による教育環境の整備		
① 上田市公共施設マネジメント基本方針に基づく学校施設のあり方の検討	教育総務課	10
② 小中学校施設の耐震化事業の計画的な推進	教育総務課	11
③ 小中学校施設・設備の計画的な改修と日常的な営繕の充実	教育総務課	12
3 文化遺産の継承・活用と文化芸術活動の充実		
① 史跡等整備推進と文化財の保護と活用	生涯学習・文化財課	13
② 郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出	生涯学習・文化財課 博物館	15
③ 「上田市歴史文化基本構想」の策定事業	生涯学習・文化財課	16
4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
① 社会教育施設の計画的な整備	生涯学習・文化財課	17
② 人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	18
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
① 体育施設の公平な利用者負担に向けた施設使用料の統一	スポーツ推進課	19
② スポーツ施設整備の推進	スポーツ推進課	20
③ 市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進	スポーツ推進課	21

I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

II 上田市教育行政評価懇話会

平成28年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月3日、7月4日、7月31日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
松本 千恵子	西部公民館運営審議会委員、元上田教育事務所 学校教育課長、元学校教育課指導主事、元北小学校長	座長
峯村 秀則	主任児童委員、元東信教育事務所 学校教育課 主幹指導主事、元学校教育課指導主事、元清明小学校長	副座長
荒井 貞雄	上田市スポーツ推進委員、民生児童委員	
竹花 のり子	上田市社会教育委員	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、上田市社会教育委員	
町田 龍一郎	筑波大学生命環境科学研究科教授、上田市文化財保護審議会委員	
山崎 順子	上田地域広域連合広域計画策定委員会 委員長、西部公民館運営審議会委員、元上田市教育委員	

Ⅲ 評価の方法

平成28年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成28年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

平成28年度 事業評価シート

1-①

事業名	学力の定着・向上 「(仮称)私の家庭学習ノート」作成	担当課	学校教育課
------------	-------------------------------	------------	-------

当初目標	平成28年度からスタートした「第2期上田市教育支援プラン」では、児童生徒に対する「学力の定着・向上」を重点項目として位置づけています。 児童生徒の学力向上に向けて「学習習慣を身に付ける家庭学習の充実」を図るためにも、全市統一した家庭学習ノートの作成、活用が必要です。 そこで、学力向上委員会を中心に原案作成し、平成29年度からの全小中学校での活用を目指します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学力向上委員会小委員会による原案作成 (5回開催)		0
	平成29年度の試行に向けた家庭学習ノートの印刷		432
目標の達成状況	学力向上委員会小委員会で家庭学習ノートの原案(生活・学習ノート「紡ぐ」)を作成しました。 なお、平成29年度から全ての小中学校での活用を目標としていましたが、児童生徒や保護者、教職員の意見等を踏まえて内容を検証するため、1年間(平成29年度)の試行期間を置くこととしました。		

総合評価	C
-------------	----------

今後の課題等	第2期上田市教育支援プランに掲げる施策の推進、特に学力の定着・向上に向けた取り組みを推進していく必要があります。学習習慣を身に付ける家庭学習の充実を図るため、本事業を継続して実施していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①「学力の向上・定着」を図るために実施する全市的な取り組みとして評価します。</p> <p>②子どもが「宿題」に加え「自学習」を続けるためには家庭の理解と協力が必要と考えます。保護者等に対して、事業の目的や家庭学習ノートの使い方を繰り返し丁寧に説明することで、この取り組みの実効性が高まることを期待します。</p> <p>また、事業の実効性を保ちながらも、家庭学習ノートの内容をできるだけ簡素化することで、家庭や教員の負担軽減を図ることも必要であると考えます。</p> <p>③家庭学習ノートを自主的に書ける子どもは、既に学習習慣ができていると考えられます。この事業の重要な点は、家庭学習ノートを書くことが難しい児童生徒をどのように支援し、次のステップにつなげていくかであると考えます。</p> <p>④この取り組みについて、児童クラブの職員とも連携して、多様な家庭環境の子どもに有効に機能するよう取り組む必要があると考えます。</p> <p>⑤29年度の試行期間を活用して、今回の意見を踏まえた取り組みを実施・検証することで、さらに課題が整理され、事業の効果が高まることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①、②学力の向上・定着を図るためには、家庭における学習習慣形成も重要であり、このため児童生徒が放課後や休日の過ごし方を自ら計画し評価する力を付けることや、保護者の理解と協力が必要です。生活・学習ノート「紡ぐ」(以下「ノート」とする。)導入にあたっては、御意見のとおり事業の目的や使い方を学校と連携し、繰り返し丁寧に説明することとします。また、ノートの導入は児童生徒のみならず、教員や保護者にとっても新たな取り組みとなるため負担感があるものと考えます。内容の簡素化や利用方法など、学力向上委員会小委員会による検討を行い配慮していくこととします。</p> <p>③御意見のとおり、ノートの使用に際しては個々の児童生徒及び保護者の状況から課題もあります。ノートに記入することのみを意識するのではなく、ノートから見られる児童生徒の姿を日々の授業や支援につなげていくことが大切であると考えます。</p> <p>④放課後児童クラブ職員にノートを周知し、利用児童に対する声かけなど協力をお願いしていきます。</p> <p>⑤本事業の参考とした自治体でも、導入から毎年度ノートの検証、改良を重ね、徐々に効果を上げてきたと伺っています。ノートの使用が学習習慣の定着、学力向上につながるよう毎年度検証することとします。</p>	
今後の方針等	平成30年度からの全小中学校活用に向け、本年度の試行状況を学力向上委員会小委員会で検証するとともに、試行実施校以外の学校にノート(素案)を発信し意見を求めるなど、より効果的な事業となるよう取り組んでいきます。		

平成28年度 事業評価シート

1-②

事業名	英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実	担当課	学校教育課
-----	--------------------------	-----	-------

当初目標	平成32年度からの小学校英語教科化に向け、上田市英語教育推進計画の本年度中の策定を目指します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	英語教育担当指導主事の配置	2,204	
	小学校英語教科化推進委員会の開催（3回）	0	
	英語指導助手（ALT）研修会の開催（5回）	15	
	小学校英語教科化研修会の開催（2回）	30	
目標の達成状況	<p>上田市英語教育推進計画は次期学習指導要領と関連づける必要があるため、次期要領の詳細が明らかでない時点では策定に至りませんでした。</p> <p>しかしながら、英語教科化推進委員会の設置、同委員相互による授業研究、外部講師による研修会の開催など、実践に役立つ取り組みが推進できたことは、現在実施されている小学校外国語活動の充実、英語教科化に向けた準備につながったものと考えます。</p>		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	<p>小学校英語教科化に向けた取り組みとして、引き続き小学校英語教科化推進委員会での協議、平成29年度から新たに設置した小学校外国語活動担当者連絡協議会での研修を通じ、現在行われている小学校外国語活動の充実及び教科化に向けた準備を行う必要があります。</p> <p>また、平成32年度からの教科化に向けては、移行措置が必要であることから、授業時間の確保、指導方法の研究が必要となります。</p> <p>更に、英語が楽しいと考える児童生徒を育成し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①グローバルに活躍できる人材が求められる場面もあり、子どもにとって英語教育は重要であり、必要性が高い事業であると考えます。</p> <p>②必要性が高い事業ですが、多忙である教員の負担がさらに大きくなることが心配されます。英語教科化に向けた取り組みにおいては、教員の負担へも配慮しながら、効果的な事業になることを期待します。</p> <p>③高校入試や大学受験の変化などの動向にも留意しながら、取り組みを進める必要があると考えます。</p> <p>④授業時間の確保などに加え、意見②③などの課題やその対応についても、これから作成する上田市英語教育推進計画に盛り込まれることを期待します。</p> <p>また、英語教科化について、保護者へ適切な情報提供が行われる必要があると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①第2期上田市教育支援プランの基本目標「グローバルな能力を培う」実現に向け、児童が早期から英語に親しみ、コミュニケーション能力の向上が図られるよう取り組みます。</p> <p>②小学校英語教科化に向けては、市教委英語教育指導主事による学校訪問、公開授業の実施、ALT（英語指導助手）の効果的な配置を行うことなどを通じて、学校における指導体制を支援していきます。</p> <p>③④次期学習指導要領や国が示す方向性に基づいた計画になるよう留意します。また、児童生徒が学校での授業以外に公民館などで英語に触れる機会の創出についても、計画の中に盛り込んでいきたいと考えます。英語教科化に対する本市の考え、小学校英語活動の目的など、学校と連携して今後保護者へ説明していきます。</p>	
今後の方針等	平成32年度からの小学校英語教科化に向け、平成30年度からの先行実施が可能となるよう準備を行うとともに、英語教育に関する推進計画の平成29年度中の策定を目指します。		

平成28年度 事業評価シート

1-③

事業名	特別な支援を要する児童生徒への支援	担当課	学校教育課
当初目標	<p>タブレットパソコンは個に応じた支援を行うことに長けたICT機器であり、特別支援学級に在籍する児童生徒への教育的効果が高いことが知られています。そこで、平成28年度から3か年の計画で、市内小中学校全ての特別支援学級にタブレットパソコンを配備し、児童生徒の授業や生活の支援に活用します。</p> <p>平成28年度は、小学校8校、中学校3校の特別支援学級にタブレットパソコンを導入します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	特別支援学級へのタブレットパソコン配備と無線LAN環境の整備 (小学校8校 50台、中学校3校 16台)	4,990	
	タブレットパソコンの利用方法・指導方法に関する職員研修の実施		上記に含む
目標の達成状況	<p>特別支援学級の児童生徒の状況に応じて、タブレットパソコンを使用しています。個々の苦手部分を補いながら学習をすることで自信を深めたり、学習への意欲が増したなどの成果が報告されています。</p> <p>有効なアプリの情報は、学校教育課で集約し、学校に情報提供を行っています。また、タブレットパソコンを用いた効果的な指導の在り方について職員研修を行いました。</p> <p>ICT支援員を派遣し、タブレットパソコンの利用方法について支援を行いました。</p>		

総合評価	A	
今後の課題等	<p>児童生徒の状況に合わせた教材の活用が必要です。</p> <p>タブレットパソコンを用いた支援の仕方について引き続き教員の研修を実施する必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①視覚からの情報を得意とする児童生徒に対する支援として、タブレットパソコンを用いることは有効であり、教育的効果がある取り組みとして評価します。</p> <p>②効果的な事業を展開するために、継続的な職員研修を実施し、タブレットパソコンの操作方法に加え、特別な支援を要する児童生徒への理解を深めることが必要であると考えます。</p> <p>③タブレットパソコンの配備が計画的に進められることを期待します。</p> <p>④支援が必要な児童生徒に対して、タブレットパソコンを用いた授業が行われることにより、社会で生きていくうえで必要な力が養われるなど、将来を見据えた支援が実施されることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>①タブレットパソコンを効果的に活用し、個に応じた支援を継続します。</p> <p>②タブレットパソコンの操作方法の他に、特別支援学級の担任の専門性を高めるとともに、担任以外の教職員にも児童生徒への理解を深めるための職員研修や研究授業を継続的に実施します。</p> <p>③支援学級のタブレットパソコンの配備については、早ければ平成29年度中に完了する予定です。</p> <p>④タブレットパソコンを用いることにより、児童生徒の個々の状況に応じた学習支援ができ、授業の理解や本人の自己肯定感につながり、落ち着いて授業に参加できるようになるなど生活態度にも変化が現れます。学校での授業の理解度を高め、今後の社会生活に必要な知識、技能が身に付くよう引き続き支援を実施していきます。</p>
今後の方針等	<p>さまざまなアプリがあるので、有益な情報は学校教育課で集約し、学校に情報提供をしていきます。</p> <p>タブレットパソコンの操作方法とともに、特別な支援を必要とする児童生徒についての理解を深めるための研修を行います。</p> <p>学校での活用やトラブルへの対応のため、ICT支援員を派遣し、支援を行います。</p>	

平成28年度 事業評価シート

1-④

事業名	地域とともにある学校づくり	担当課	学校教育課 生涯学習・文化財課
-----	---------------	-----	--------------------

当初目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ等で学校の情報を積極的に地域にお知らせします。(36校) ・持続可能な仕組みとするため、学校と地域の体制が整ったところから信州型コミュニティスクール等の導入を進めます。(24校) ・信州型コミュニティスクールを支援するため、地域の教育力を活用し、新しい公共(参加と協働)による学校づくりができるよう、公民館等を核とした地域が学校を支援する取り組みを更に進めます。 ・コーディネーター養成講座を開催します。(5回) 		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校ホームページ等で学校の情報を積極的に周知	0	
	既存の学校評議員を運営委員会に活用しやすくするための要綱改正	0	
	地域と共にある学校づくりシンポジウムの開催(1/13)	133	
	コーディネーター養成講座の開催(5回)	0	
	広報うえだ(10/16号)に記事掲載	0	
学校支援に関するチラシを作成(20,000枚)	56		
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報発信を全校において学校ホームページ等で積極的にお知らせしました。(36校) ・信州型コミュニティスクールなどの要件を満たす学校数は36校となりました。 ・「地域と共にある学校づくりシンポジウム」を開催し、ボランティアや学校関係者を合わせ、130名を超える方に参加いただきました。 ・コーディネーター等を対象とした養成講座や研修会を5回行いました。 ・広報うえだに学校支援に関する記事を掲載し、地域の方に周知を図りました。 ・地域の方や保護者に周知するため、学校支援(信州型コミュニティスクール)のチラシを作成しました。 		

総合評価		A
今後の課題等	<p>国のコミュニティ・スクールの小学校2校と、公民館と連携して地域ぐるみで学校を支援する「学校支援地域本部事業」を行っている塩田中学校のほか、信州型コミュニティスクールの要件を満たしている小中学校が33校となり、全小中学校での導入となります。</p> <p>今後も、地域住民や保護者への周知を図るとともに、学校の実情や地域の特徴を生かしながら、地域が学校を支援する取り組みを継続できるよう、持続可能な体制を整備していく必要があります。</p> <p>コーディネーターについては、公民館職員や学校関係者に加え、地域の方にも担っていただくことで、人数が徐々に増えてきています。</p> <p>今後は、コーディネーターやボランティア同士を繋ぐ「統括コーディネーター」の存在が重要になります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①28年度のさまざまな取り組みにより、全校で信州型コミュニティスクールなどの取り組みがスタートできたことを評価します。</p> <p>②コミュニティスクールに関する取り組みは、学校の在り方を転換するという大きな変革であり、現段階で最終的な目標像を示すことは難しいと思われませんが、まず、市内全校が要件を満たしたということの評価します。</p> <p>③信州型コミュニティスクールを実効性のある事業とするためには、統括コーディネーターを中心にさらなる努力が必要であり、今後の取り組みに注目します。</p> <p>④地域に開かれた学校づくりにおいて、学校における児童生徒の安全にも留意しながら取り組みが進められることを望みます。</p>
	意見に対する考え方	<p>①学校、地域、公民館等の協力により、当初目標の29年度より1年早く信州型コミュニティスクールなどの取り組みが市内全校でスタートできました。今後も、地域の皆様に信州型コミュニティスクールの取り組みについて理解していただけるよう、さらに周知していきます。</p> <p>②今後は、継続した取り組みとなるよう、持続可能な体制を整備していきます。</p> <p>③統括コーディネーターによる研修会や、他の学校のボランティアやコーディネーター、地域の方との情報交換をとおして、コーディネーターの育成を進めます。</p> <p>④学校における児童生徒の安全にも十分配慮しながらボランティアの方が学校に関わる際のマニュアルを作成し、安全に配慮していきます。</p>
今後の方針等	<p>今後は、信州型コミュニティスクールが実効性のある事業とすることが大切であることから、学校、保護者、地域の皆様の意向を踏まえ、持続可能な仕組みとなるよう支援していきます。</p> <p>地域の方の協力を得られるように、学校支援に関するチラシの自治会回覧や保護者への配布などを通じて、取り組み内容のさらなる周知を図ります。</p> <p>重要な役割であるコーディネーターは、地域の方に担っていただくことが重要であり、今後も、研修会等を開催し、人材の育成・発掘に努めます。</p> <p>他の学校のコーディネーターや地域の皆様と情報交換を行い、自らの活動に反映することは重要であるため、コーディネーターやボランティアが集まれる交流会を計画いたします。</p> <p>また、各学校のコーディネーターのネットワーク化の促進、学校ごとの取り組みの支援等を図っていくために、「統括コーディネーター」を配置します。</p>	

平成28年度 事業評価シート

1-⑤

事業名	食育の推進・充実にに向けた環境の整備	担当課	教育総務課
-----	--------------------	-----	-------

当初目標	<p>学校給食については、施設の老朽化、食物アレルギーへの対応などの課題があり、平成27年度に決定した「今後の学校給食運営方針」に基づき、施設の整備計画及び運用方法を検討する必要があります。</p> <p>そこで、「今後の学校給食運営方針」を具体化するために、内部検討組織を設置し、検討を進めます。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校給食検討会議の設置による内部検討		0
	先進地視察（千葉県鎌ヶ谷市、長野市）		21
目標の達成状況	<p>教育委員会内に設置した学校給食検討会議において、手作りによる調理、地産地消の推進、アレルギー対応、新しい施設で使用する食器などについて、計9回の検討を行うとともに、先進地視察を2回実施しました。</p> <p>また、新しい給食センターの建設候補地について、インフラの整備状況などを調査するとともに関係機関と協議を進めました。</p>		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	<p>学校給食が児童生徒の健全な育成に資するよう、これまでどおり安全な学校給食を提供する必要があります。このため、老朽化した調理場の更新計画を加速化するとともに、全市的に開始する食物アレルギー対応についても、具体的な対応方針・方法について、検討を進める必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①多くの検討項目・課題があるようですが、安全な学校給食の提供を継続することを第一に考え、事業を進める必要があると考えます。</p> <p>特にアレルギー対応においては、児童生徒の生命に関わるケースもあるため、慎重な議論を重ね方針が検討されることを願います。</p> <p>②学校給食における地場産物の活用について、積極的な地元食材の活用やホームページによる情報発信などの取り組みを評価します。新しい給食センターにおいても、これまでの取り組みが継続されることを願います。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①学校給食には、適切な栄養摂取、食に関する正しい知識を身につけること、安全安心であることなど多くの役割が求められますが、その中でも「安全」であることが特に重要であると考えています。</p> <p>学校給食衛生管理基準に基づく施設整備や運営を行うことに加え、安全なアレルギー対応を実施するために、文部科学省の指針や先進事例などを参考に上田市の対応方針を検討します。</p> <p>②学校給食における地場産物の活用については、地域食材への理解、食に対する感謝の念を育む等の教育的効果があることが認められています。</p> <p>新しい給食センターにおいても、地場産物を積極的に活用できるように農林部などの関係機関と連携を図り、これまでの取り組みを継続していきます。</p>	
今後の方針等	<p>新しい給食センターの建設候補地の選定を進めるとともに、引き続き、学校給食検討会議において、調理現場の栄養士、調理員と連携して学校給食施設の整備及び運営方法について検討を進めます。</p>		

平成28年度 事業評価シート

1-⑥

事業名	放課後児童対策の充実	担当課	学校教育課
当初目標	①「学童保育所トットの家」について、実施設計に基づき施設の建築を行います。 ②施設における慢性的な職員不足の解消に向けて、国県の補助金を活用し、放課後児童支援員等の処遇改善（給料の増額）を実施します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	① 「学童保育所トットの家」の建築	65,848	
	② 放課後児童支援員等の処遇改善の実施	3,549	
目標の達成状況	①平成29年2月27日から新施設での事業を開始 ②職員数、就労形態、勤続年数に応じて処遇改善額を決定し、平成28年12月に指定管理料に上乗せして支払いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	①他施設の改修等を検討する必要があります。 ②処遇改善を継続するためにも、国県の補助金以外の財源を検討する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見	①放課後児童クラブ等は、学校でも家庭でもない時間帯であること、また、大勢の子どもたちを少人数の職員体制で対応する場面があることから、さまざまな危険が想定されます。支援員等の処遇改善などの取り組みをとおして、必要な人員配置を維持することで、子どもたちが安全に施設利用できることを期待します。 ②国、県の財政支援が今後も継続されるかは不透明ですが、処遇改善などの取り組みが継続され、施設の安定的な運営と児童生徒の安全な施設利用が維持されることを期待します。		
意見に対する考え方	①放課後児童クラブ等での子供たちの安全は最優先される事項だと認識しています。そのため、処遇改善などの取り組みをとおした必要な人員配置とともに職員のモチベーションの向上に努めていきたいと考えています。一方で、施設の安全には利用者の協力も不可欠であるため、施設の適正な利用について利用者及び保護者に周知徹底していきます。 ②放課後児童クラブ等の安定的な運営と児童生徒の安全な施設利用の維持には、そこで働く職員の確保が今後更に重要になります。処遇改善などの取り組みの継続のため、使用料の改正等、安定した財源確保について検討していきます。		
今後の方針等	①「上田市公共施設マネジメント基本方針」及び小学校の改修時期を考慮し、検討します。 ②使用料の改正等を含めて検討します。		

平成28年度 事業評価シート

2-①

事業名	上田市公共施設マネジメント基本方針に基づく学校施設のあり方の検討	担当課	教育総務課
当初目標	上田市公共施設マネジメント基本方針に掲げられた、学校施設の維持管理及び整備等の基本的な方向性を検討します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校施設の現状把握		0
目標の達成状況	<p>県主催の学校施設長寿命化研修会に担当職員が出席し、全国の動向・事例などについて学びました。</p> <p>行政改革推進室を中心に進めている「公共施設カルテ」の作成等、次年度以降開始する学校施設の適正規模・適正配置の検討に向けた準備を進めることができました。</p>		

総合評価	C
-------------	----------

今後の課題等	学校施設カルテ等の作成状況を見ながら、今後の学校施設のあり方（統廃合等を含む）の方針を決定する必要があります。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①人口減少社会の到来に伴いこのような学校のあり方の検討も必要であると考えます。</p> <p>②学校施設のあり方については、施設の建設・維持における経済合理性だけでなく、小中学校において、どのような教育を実施するかという視点を中心に検討が進められることを願います。</p>
	意見に対する考え方	<p>①今後も児童・生徒数が確実に減少することから、子どもたちにとって適切な教育環境の整備に向け引き続き取り組んでいきます。</p> <p>②平成29年度以降の検討においては、小中学校における教育のあり方を検討する中で、その教育に適応した施設を整備するよう努めていきます。</p>
今後の方針等	平成29年度以降に予定している、学校施設の適正規模・適正配置に関する検討において、内容を具体化していきます。	

平成28年度 事業評価シート

2-②

事業名	小中学校施設の耐震化事業の計画的な推進	担当課	教育総務課
-----	---------------------	-----	-------

当初目標	<p>早急に建物の耐震化を図るとともに、屋内運動場の天井材、照明器具、窓ガラスなどの非構造部材の耐震化も推進し、児童生徒の「学びの場」と、災害時には避難所にもなる小中学校施設の安全確保を図ります。</p> <p>耐震化率 校舎・屋体 100% 非構造部材 100%</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①本原小学校管理教室棟改築事業		678,719
	②第三中学校改築事業		1,577,699
	③第四中学校改築事業		735,411
	④屋内運動場の非構造部材耐震化工事（東小・城下小）		53,802
目標の達成状況	<p>①本原小学校管理・教室棟改築工事は、1月末に竣工しました。 仮設校舎の解体工事は1月に契約し、一部工事を平成29年度に繰り越し実施します。</p> <p>②第三中学校改築事業は、3月に竣工しました。</p> <p>③第四中学校改築事業について、屋内運動場は9月に竣工しました。 プール改築事業は12月に着工し、一部工事を平成29年度に繰り越して実施します。</p> <p>④屋内運動場非構造部材耐震化工事は、東小学校・城下小学校が完了し、すべての耐震化工事が完了しました。</p> <p>3月末現在の耐震化率 校舎・屋体 100.0% 非構造部材 100.0%</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>耐震化はすべて完了しましたが、今後も、老朽施設について、適切な営繕を行うとともに、計画的な改築等を実施する必要があります。 学校施設の改築に当たっては、施設の統廃合等、将来の児童・生徒数の推移を念頭に改築計画を定める必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①学校施設の耐震化率100%を達成したということで、文部科学省の方針や市の年次計画に基づき、これまで精力的に取り組まれてきたことを評価します。</p> <p>②学校施設の改築により耐震化を達成した学校に対して、耐震補強により耐震化を図った学校は、引き続き施設の老朽化への対応が課題と考えます。今後も児童生徒の安全な学習環境の整備に向け、必要な取り組みが実施されることを願います。</p>
今後の方針等	意見に対する考え方	<p>①②耐震化が完了した後の施設管理においては、施設の老朽化度合も勘案しながら、長寿命化や改築など、必要な対応を適時検討し、子どもたちが安全に安心して教育が受けられる環境整備に努めていきます。</p>
今後の方針等	<p>少子化の進行に合わせた学校施設のあり方等を検討する中で、施設の改築計画等を定めていきます。</p>	

平成28年度 事業評価シート

2-③

事業名	小中学校施設・設備の計画的な改修と日常的な営繕の充実	担当課	教育総務課
-----	----------------------------	-----	-------

当初目標	学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を考慮しながら、営繕工事等を計画的に実施し、安全で快適な教育環境の整備を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①小学校シャワー施設設置工事(5校)		5,864
	②小中学校施設営繕事業		86,463
	③丸子中央小学校防火扉改修事業		28,026
目標の達成状況	<p>①小学校シャワー施設設置工事は6校(東・西・塩田西・丸子北・菅平・長)中5校が完了しました。(残る1校(西小)は29年度早期に実施)</p> <p>②学校施設の老朽箇所・故障箇所等の日常的な営繕工事を行い、教育環境の充実に努めました。</p> <p>③丸子中央小学校防火扉改修工事は、平成29年2月に竣工しました。</p>		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	建築後40年以上経過した施設が全体の約3割を占め、今後営繕が必要となる個所の増加が容易に想像できることから、実施年度・内容等を定め計画的な営繕を実施する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①市内の小中学校は36校あるため、仮に2年に1校を改築したとしても、1校あたり72年は使用することになり、日々の施設営繕は必須となります。 予算の制約もありますが、必要な営繕を実施することにより、子供たちが安心して学習できる環境が維持されることを願います。</p> <p>②子どもの安全確保については、施設の営繕に加え、高い危機管理意識を持った日常点検が必要と考えます。 また、施設に起因するリスクの分析は、子ども目線で実施される必要があると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①将来に渡って児童生徒が安全に安心して教育が受けられるよう、各学校からの営繕要望、学校施設の法定点検の結果等に基づき、計画的な営繕が実施できるよう引き続き取り組んでいきます。</p> <p>②3年に一度行う学校施設の法定点検結果に加え、子ども目線を意識した日常点検の結果を教育委員会と学校(教職員)が共有することにより、施設に起因する事故の発生を未然に防ぐよう努めます。</p>	
今後の方針等	施設営繕の実施に当たっては、これまでの対症療法的な取り組みから、予防保全的な取り組みへの転換を図り、効率的な営繕に努めます。		

平成28年度 事業評価シート

3-①

事業名	史跡等整備推進と文化財の保護と活用	担当課	生涯学習・文化財課
-----	-------------------	-----	-----------

当初目標	<p>①史跡上田城跡復元整備事業：上田城跡整備実施計画検討委員会(1回以上)・資料収集・調査(随時)</p> <p>②史跡信濃国分寺跡整備事業：僧寺南大門東域発掘調査</p> <p>③市内遺跡発掘調査事業：開発事業に伴う事前調査(随時)</p> <p>④埋蔵文化財発掘調査事業：上田城跡(二の丸南東部)の公開発掘調査、西畑道下遺跡、渋取田遺跡の発掘調査</p> <p>⑤市内文化財の保護と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕等補助 ・無形文化財継承団体補助(16団体) ・文化財de文化祭事業(文化財学習と文化財を活用した文化事業)の実施 ・文化財のデジタル保存と活用 		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	①西櫓木材の年代測定、実施計画検討委員会の開催(1回)	1,095	
	②僧寺南大門東側築地塀推定地の発掘調査(10月～11月)	5,606	
	③開発事業に伴う立会調査(96件)、試掘調査(16件)	1,300	
	④上田城跡二の丸南東部の公開発掘調査(7月～9月)、西畑道下遺跡発掘調査(11月～12月)	12,000	
	⑤・市指定文化財「お舟の天王山車」、「旧千曲会館」、「科野大宮社社叢」保存修理事業補助	3,893	
	・無形民俗文化財後継者事業補助(16団体)	480	
	・「文化財de文化祭」の開催(2回)	500	
目標の達成状況	<p>①史跡上田城は、調査及び委員会の開催を計画どおり実施しました。西櫓真柱の木材年代測定では、科学的調査により15世紀中頃から17世紀前半の間に伐採されたケヤキ材との結果を得ました。</p> <p>②史跡信濃国分寺跡については、計画どおり発掘調査を実施しましたが、今回の調査範囲では築地塀の痕跡は確認できませんでした。</p> <p>③市内の開発事業に伴う立会調査(96件)と、試掘調査(16件)を実施しました。</p> <p>④史跡上田城跡の発掘調査は、発掘現場を一般に公開しながら行い、期間中約600人の見学があり好評でした。また、西畑道下遺跡(古安曾)の発掘調査も計画どおりに実施しました。なお、渋取田遺跡(諏訪形)は試掘調査の結果、本調査は不要と判断されました。</p> <p>⑤市指定文化財の保存修理事業への補助により、文化財の保全に寄与できました。また、無形民俗文化財後継者育成事業の補助を計画どおりに行いました。さらに、「文化財de文化祭」事業を、第1回は「依水館」で演劇パフォーマンス、第2回は「生島足島神社神楽殿」で南インド舞踊と演劇を開催し、併せて文化財見学会を行いました(参加者合計約200人)。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>国の史跡上田城跡と信濃国分寺跡の整備事業については、「史跡上田城跡保存管理計画」、「史跡上田城跡整備基本計画」及び「史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画」に基づいて着実に推進していく必要があります。</p> <p>大河ドラマ放送をきっかけに、真田氏関連の歴史に関心が高まりましたが、これを機会に多くの文化財を有する上田市として、その歴史と文化遺産を広く伝えるとともに、その価値を共有化し、活用し続けるための施策が必要です。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①自分自身、学生時代に発掘調査に関わったことがあり、体験をとおして文化財に興味を持つようになったと感じている。市が実施する発掘現場の公開などに加え、可能な場合には発掘調査における市民参加の機会が設けられることを期待します。</p> <p>②史跡等の整備推進、文化財の保護において、学芸員の育成が重要であると考えます。また、学芸員の育成に関する市の取り組みについて、積極的に市民にアピールすることも必要と考えます。</p> <p>③文化財は本来は保護されるものであるが、「文化財de文化祭」など市民が身近に文化財に触れる機会を創出していることを評価します。 今後、幅広い市民が気軽に文化財に出会うことができるように、このような企画が継続されることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>①市内の発掘調査は、近年小規模なものが多くなっており、一般の方の参加は難しい状況になっていますが、中学校や高等学校の職場体験学習や大学生のインターンシップ等の時期が合えば参加してもらうように配慮しています。また、地元の皆様に発掘調査の成果を公表する説明会も開催するように努めていきます。</p> <p>②史跡整備や文化財保護に携わる職員（学芸員）には、高度な専門知識が必要であり、かねてより育成に努めているところです。職員（学芸員）の研究成果については、史跡整備や博物館の展覧会等に表れますが、機会をとらえて積極的に市民にアピールできるよう努めていきます。</p> <p>③文化財は、地域の皆様に関心を持っていただき、地域で保存し、後世に継承していくことが重要と考えています。そのために、「文化財de文化祭」事業のような日ごろ文化財に触れる機会の少ない皆様にも気軽に参加していただき、文化財に関する知識と理解を深める機会を今後も積極的に創出していきます。</p>
今後の方針等	<p>史跡上田城跡では、本丸南側（真田神社社務所跡）の発掘調査を実施するとともに近年の発掘調査の成果を報告書にまとめ、県宝西櫓の国指定文化財への格上げについて関係機関と協議を進めます。</p> <p>地域の文化財を保存・継承していくために、保存修理や後継者育成に対して補助を行うとともに、「文化財de文化祭」事業等を通じて公開・活用に積極的に取り組みます。</p>	

平成28年度 事業評価シート

3-②

事業名	郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	生涯学習・文化財課 博物館
-----	-------------------------	-----	------------------

当初目標	①平成28年度NHK大河ドラマ関連事業 ・博物館企画展の開催（3回） ・真田氏の演劇鑑賞事業の開催（7校） ②郷土の文化・歴史や偉人の業績をテーマとした特別展及び講座の開催 ・博物館・資料館企画展の開催（4回）、体験教室・講座の開催（30回） ・公民館・図書館講座の開催（各1回以上） ・冊子「ふるさと上田人物伝」の作成と頒布 ③郷土の文化・歴史に係る資料の調査研究 ・博物館・資料館に関連した史跡や遺構等の現地調査、古文書・遺物等の資料調査（通年）		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①真田氏関連特別企画展		2,447
	真田氏の演劇鑑賞事業（8校）		2,400
	②博物館・公民館・図書館において展覧会・講座等を実施		0
	冊子「ふるさと上田人物伝」作成		1,497
目標の達成状況	①大河ドラマ関連事業としては、27年度に引き続き「真田氏関連特別企画展」を4回開催し、入館者数が通常期のH26と比べると約4倍となり、開館以来最高を記録しました。また、真田氏の演劇鑑賞事業は、市内小学校において6月～11月の間に8回（8校）開催し、地域住民と合わせて2,255人が鑑賞し、大きな反響がありました。 ②博物館、信濃国分寺資料館、丸子郷土博物館、武石ともしび博物館で、郷土の文化、歴史、偉人の業績をテーマにした企画展や講座を計画どおり開催しました。また、全ての公民館及び図書館で講座を開催しました。さらに、郷土の先人・偉人を紹介する冊子「ふるさと上田人物伝」の作成を進めました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	①大河ドラマ「真田丸」の放送により関心の高まった真田氏、室賀氏、上田城等について改めて検証し、より深みのある展覧会や講座を企画していく必要があります。 ②真田氏以外の郷土の文化・歴史・偉人の業績をテーマにした展覧会や講座を博物館・公民館・図書館等の社会教育施設で開催し、郷土の文化や歴史について学習し、理解と愛着を深める機会を創出する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①子どもたちの上田市への愛着をどう育てるかは非常に重要であると考えます。学校における取り組みをとおり、子どもたちが郷土の文化・歴史等に触れ、探究心を持って学習する機会を持つことができることを期待します。 ②上田城跡、櫓などは文化財であるが、観光的な性格も合わせ持っていると考えます。引き続き、教育委員会以外の部局とも連携を図り、郷土の文化・歴史などの魅力発信が進められることを期待します。	
	意見に対する考え	①子どもたちが郷土の歴史や先人・偉人に興味を持ち、探究心を持って学習できるよう、学校教育課等と連携しながら今後も機会を捉えて様々な取り組みを進めていきます。 ②上田城跡や櫓などは、貴重な文化財ですが、同時に上田市の重要な観光資源でもあります。今後も観光課等と連携しながら情報発信に努めていきます。	
今後の方針等	①博物館においては、魅力ある展覧会の開催や定期的に常設展示の展示替えを行うとともに、市民や観光客のニーズに対応した公開講座を含めた講座等を開催します。 ②博物館以外の各社会教育施設においては、郷土の文化・歴史・偉人等に関する展覧会や講座を開催します。		

平成28年度 事業評価シート

3-③

事業名	「上田市歴史文化基本構想」の策定事業	担当課	生涯学習・文化財課
-----	--------------------	-----	-----------

当初目標	①調査指導者・調査員等の選任 ②市内文化財の調査及び調査カードの作成		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①調査指導者（8人）及び協力コンサルタント会社の選定		6,737
	②市内の古民家及び仏像の調査と調査カードの作成（約30%終了）		上記に含む
目標の達成状況	事業の初年度として、文化財の調査を指導する調査指導者（駒澤大学・実践女子大学）8人と、基本構想策定に協力するコンサルタント会社を選定し、6月から市内の古民家と仏像について調査を開始しました。 調査は大学生を数班に分けて市内を回り、写真撮影、計測等を行って、調査カードを作成し、約30%の調査を終了しました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	歴史文化基本構想は、「日本遺産」の申請を考慮すると、平成30年度までに策定する必要があると、市内の文化財を調査するために、時間と多くの人手を必要とします。 地域住民の文化財に対する意識調査や、調査の成果の公表により、文化財に対する関心や意識を高めていく取り組みが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①「上田市歴史文化基本構想」の策定に向けて、文化財の大規模な調査を実施していますが、適切な時期に市民に公開したり、自治会へ情報提供の協力を仰ぐことにより、調査の精度が高められると考えられます。 ②文化財の調査状況や調査結果を公表することは、市民が文化財に関心を持つ良い機会になると考えます。	
	意見に対する考え	①「上田市歴史文化基本構想」の策定に向けて、古民家や仏像の調査をお願いする自治会には個別に協力を依頼しておりますが、今後全体的に情報提供をお願いしたいと考えております。また、市民へのアンケートや地域ごとの説明会等も実施していく予定です。 ②歴史文化基本構想を策定する大きな目的の一つに、地域の皆様に地元の文化財に対する知識や関心を深めてもらい、地域で文化財を周辺環境とともに守り、よりよい姿で受け継いでいく気運を育むことがあります。そのために、地域ごとに説明会を開催し、地元の文化財について理解を深めていただく機会を設けていきます。	
今後の方針等	29年度は調査の継続とともに、基本構想の素案作成のための策定委員会を組織して構想案の検討を進めます。		

平成28年度 事業評価シート

4-①

事業名	社会教育施設の計画的な整備	担当課	生涯学習・文化財課
------------	---------------	------------	-----------

当初目標	<p>①西部公民館施設整備について、建物の建設を進めます。また、外構等の施設整備について、実施設計を行うとともに、地元との協議も行います。</p> <p>②神川統合保育園等との、神川地区公民館の建替に関連する関係部局との調整・検討を進めます。</p> <p>③上田市図書館基本構想の策定を進めます。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①西部公民館の建設等		493,668
	②神川地区拠点施設（保育園・公民館）の整備に向けた検討		0
	③上田図書館の整備に向けた検討		122
目標の達成状況	<p>①西部公民館の施設整備については、建物が平成29年3月に竣工しました。外構等については、実施設計を行いました。</p> <p>②神川地区公民館については、用地を平成29年3月に取得しました。建物については、実施設計を行いました。</p> <p>③上田市図書館基本構想の策定については、「第二次上田市図書館基本構想」の素案を図書館協議会で作成しました。</p> <p>また、上田市社会教育委員に平成29年1月に諮問し、会議を1回開始しました。</p>		

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>豊かな生涯学習社会の実現に向け、老朽化等が進む社会教育施設について、引き続き計画的な整備を行い、生涯学習環境の充実を図っていくことが必要です。</p> <p>①西部公民館の整備 ②神川地区拠点施設（保育園・公民館）の整備 ③上田図書館の整備</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①生涯学習の拠点である公民館の整備に順次取り組まれていることを評価します。</p> <p>②公民館を活用した生涯学習は時代とともに変化をしていると感じることもありますので、時代のニーズに合わせた施設利用に応えられるようソフト面の充実が図られることを期待します。</p> <p>③施設整備においては、適切な時期に利用者等の要望把握に努め、利用者のニーズに合致した施設整備が進められることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①耐震基準を満たしていない公民館の整備につきましては、神川地区拠点施設の整備で完了となります。今後も引き続き、関係する施設の整備に取り組んでいきます。</p> <p>②地域住民のニーズに応えるとともに、昨今の生活課題等も取り入れながら、地域のコミュニティの形成に寄与する講座等の充実を目指していきます。</p> <p>③今後の施設整備におきましても、施設整備の計画段階から利用者団体等の意見を聞くなどして、利用者のニーズも考慮した施設整備を進めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>①西部公民館については、外構等の整備を進めます。</p> <p>②神川地区拠点施設整備については、建設用地の造成を行い、複合施設の建設を行います。</p> <p>③上田図書館については、上田市の図書館施設の配置やあり方、役割分担も含め「第二次上田市図書館基本構想」を策定し、その中で施設の整備についても検討を進めます。</p>		

平成28年度 事業評価シート

4-②

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
------------	--------------	------------	-----------

当初目標	<p>人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。</p> <p>また、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるよう研修会等(数値目標 参加者36,000人)を開催し、市民の人権意識の更なる向上を図ります。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校人権同和教育		4,520
	地域人権同和教育		4,626
	社会教育団体等の人権同和教育の推進		295
	企業人権教育の推進		200
目標の達成状況	<p>学校、地域、団体、企業等全体で、講演会と研修会を開催した結果、延べ36,800人が参加し、市民の人権意識の更なる向上が図られました。</p> <p>人権啓発担当者研修会では、市内の各種団体や各学校のPTA、保育園・幼稚園の保護者が参加し、地域のリーダーとなるべく人材の育成を目的とした学習会を実施しました。参加した多くの方から、「相手の気持ちになって考えられるようにしていきたい」「普段、あまり考えたことがない研修会でたいへん勉強になった」などご意見をいただきました。</p>		

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>一人でも多く参加をいただき、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるような、有意義な研修会等を企画・実施し、人権同和教育と啓発を継続して推進していく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①人権教育の成果はなかなか形に見えにくいですが、学校人権、企業人権などそれぞれ積極的な取り組みが行われていることを評価します。引き続き、人権が尊重される上田市を目指して、一層の取り組みが行われることを期待します。</p> <p>②企業における人権教育においては、学校における人権教育とは異なった視点で人権を考えることができると考えます。このように人権教育が多様な場で行われることが人権啓発において大切であると考えます。</p> <p>③人権教育の推進のために、学校で行われる人権教育の内容を保護者が知る機会を設けることも大切と考えます。各地域における人権教育の機会に学校で使用する人権教育の資料などを紹介することも1つの方法であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①人権が尊重される上田市を目指して、一人でも多くの方が研修に参加し、学べるよう、一層、取り組んでいきます。</p> <p>②上田市企業人権教育連絡会には、約200社の企業が参加しています。最近は、各種ハラスメントなどを例に企業倫理、企業での人権が叫ばれるようになりました。これからはしっかりと取り組んでいきます。</p> <p>③若い世代(保護者)が同和教育について知らないという割合が増えているというアンケート結果もあります。そういう世代にも、同和教育を知ってもらう機会を増やすことが大事だと考えております。</p>	
今後の方針等	<p>地域、学校、企業等で行う研修会等においては、それぞれの課題に合わせた実効性のある取り組みとなるよう検討していきます。また、公民館等と連携して、大勢の方に参加してもらえよう工夫するとともに、参加した人が日常生活の中で人権に配慮した態度や行動に現れるよう教育と啓発に努めます。</p>		

平成28年度 事業評価シート

5-①

事業名	体育施設の公平な利用者負担に向けた施設使用料の統一	担当課	スポーツ推進課
-----	---------------------------	-----	---------

当初目標	現在の体育施設使用料は、旧市町村別の料金体系であり、利用者負担の公平性に欠けていることから、体育施設使用料を見直し、料金を統一するとともに、上田市体育施設条例を改正する。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①体育施設使用料の現状と新使用料のシミュレーション作成		0
	②12月市議会定例会に体育施設条例一部改正を上程		0
	③広報うえだや上田市ホームページに体育施設新使用料を掲載		0
目標の達成状況	<p>主な施設について、現使用料と新使用料のシミュレーションを行い、使用料収入の検証を実施しました。</p> <p>体育施設条例の一部改正について、12月市議会定例会にて議決となりました。</p> <p>広報うえだ1月16日号及び上田市ホームページにより、平成29年4月1日より体育施設使用料が改定となる周知をしました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	平成29年度より新使用料に改定することから、利用者からの問い合わせ等が想定される。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①公平な料金体系への再構築が実施されたことを評価します。</p> <p>②体育施設使用料の見直しや日常のさまざまな取り組みにより、より市民が利用しやすい施設となり、気軽にスポーツを楽しめる環境が整備されることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①体育施設の使用料統一は、平成18年の市町村合併時からの調整項目であり、市民の皆様をはじめ、多くの方々に利用していただけるよう、今回の見直しにより、施設別規模別に使用料を統一しましたので、各施設にて新料金表等を掲示し、併せて、公平な利用者負担についても市民の皆様にご理解いただけるよう努めていきます。</p> <p>②施設の新使用料の定着とともに、スポーツ競技関係団体等の意見も聞きながら、施設整備を促進し、市民の皆様が利用しやすい環境整備に努めていきます。</p>	
今後の方針等	体育施設利用者に対し、使用料改定のチラシ配付やホームページの閲覧等を促し、新使用料の定着に努めます。		

平成28年度 事業評価シート

5-②

事業名	スポーツ施設整備の推進	担当課	スポーツ推進課
-----	-------------	-----	---------

当初目標	<p>老朽化が顕著となっているスポーツ施設について、人口減少等も見据え、将来に渡り持続可能な施設整備を図る必要があることから、スポーツ施設整備基本構想(案)と公共施設マネジメント基本方針との整合を図るとともに、関係団体と協議しながら、スポーツ施設整備基本構想を策定します。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	庁内関係部署との協議		0
	上田市体育協会役員会及び同施設委員会への説明		0
	上田市スポーツ推進審議会との協議		0
目標の達成状況	<p>公共施設マネジメント基本方針との整合を図るため、担当課である行政改革推進室との協議を行いました。</p> <p>体育協会の役員会などにおいて、スポーツ施設整備基本構想(案)を説明しました。</p> <p>スポーツ推進審議会において、スポーツ施設整備基本構想(案)を説明し、各委員より御意見をいただき、構想に反映させました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	スポーツ施設整備基本構想に基づき、施設の整備計画を策定する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①上田市には多くのスポーツ施設がありますが、市民が安全に利用できるよう取り組みが進められることを願います。</p> <p>②スポーツ施設の整備においては、適切な時期に利用者をはじめとする市民の意見把握に努めるとともに、市民のスポーツへの関心が高まるような施設整備が実施されることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①現在、スポーツ施設は132施設ありますが、その内半数近くが設置から30年以上経過し、老朽化が顕著な状況であることから、今後策定する施設整備計画の中で、市民の皆様が安全で安心して利用できる施設整備に努めていきます。</p> <p>②今後策定する「上田市スポーツ施設整備計画」において、市民の皆様やスポーツ関係団体等の意見を把握し、スポーツへの関心向上と施設が利用しやすい環境整備に努めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>主な施設の建築物健全度調査を実施し、長寿命化計画書を作成します。その調書を基に、上田市スポーツ施設整備計画を策定します。</p>		

平成28年度 事業評価シート

5-③

事業名	市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進	担当課	スポーツ推進課
-----	---------------------	-----	---------

当初目標	①スポーツイベント(20事業)、スポーツ教室(60教室)の開催、及び情報発信(30回) ②全国大会等出場者支援(25件) ③こころのプロジェクト「夢の教室」やスポーツイベントにおいてトップアスリートの招聘 ④市内4団体の情報共有と事業連携を図るための組織設立を支援		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「広報うえだ」(110回)、「上田スポーツプレス」(6回)へ情報掲載	300	
	こころのプロジェクト「夢の教室」の開催(7校、14クラス、421人)	1,479	
	スポーツイベントの開催(29事業)	14,505	
	スポーツ教室の開催(62教室)	6,511	
	スポーツ少年団への補助、全国大会出場奨励金(34件)、市長表彰(7件、うち6件はスポーツ推進課、1件は学校教育課担当)	4,845	
目標の達成状況	①「広報うえだ」や「上田スポーツプレス」等を活用し、スポーツ団体の活動状況やスポーツ関連の情報提供を行いました。 ②全国大会の出場者に奨励金の交付を行うとともに、市長表敬や成績優秀者に対して市長表彰を行いました。 ③こころのプロジェクト「夢の教室」(1校増)や「第30回上田古戦場ハーフマラソン」、「はつらつママさんバレーボールin上田」でトップアスリートを招聘し、市民と直接触れ合う機会を設けました。 ④総合型地域スポーツクラブについては、情報共有と事業連携を図るための会議(4回)を実施したほか、県内のクラブが参加する連絡協議会に出席し情報収集・交換を行いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	「健幸都市うえだ」を目指し、気軽にスポーツに親しみながら健康・体力づくりができるよう、情報提供やスポーツ団体と協働してスポーツイベントを開催する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①こころのプロジェクト「夢の教室」は、トップアスリートとの交流をとおして、子どもたちがさまざまな体験ができる素晴らしい取り組みであると考えます。 今後もこのような取り組みが継続するとともに、多くの学校で開催されることを望みます。 ②「文化財de文化祭」のように、音楽を楽しみながら付加価値として文化財を知ることができるイベントのように、スポーツへの市民参加を促進するうえでは、スポーツ単独での取り組みでなく、他のイベントの一環でスポーツに触れる機会を創出するなどの取り組みが有効であると考えます。市役所内の他部局と連携を図り、このような取り組みが進められることを期待します。	
	意見に対する考え	①こころのプロジェクト「夢の教室」については、トップアスリートと触れ合いながら、夢を持つことの大切さや、仲間と力を合わせて課題に取り組むことの楽しさを体験できる貴重な機会として、今後も引き続き実施していきたいと考えています。 ②健幸都市づくりの一環として、健康こども未来部で進めている「あたま・からだ元気体操」には、スポーツ推進課としてもスポーツ推進委員や、当課と連携している総合型地域スポーツクラブ等において普及啓発に協力しているほか、健康づくりチャレンジポイント制度においても当課事業に適用させるなど、部局を超えた連携を行っています。また、上田古戦場ハーフマラソンや爆水RUN、太郎山登山競争など、地域の文化や風土・特色をスポーツと同時に感じられる大会も実施しており、今後も引き続き関係部局・団体とともにより良い事業展開を図っていきます。	
今後の方針等	健康づくりチャレンジポイント制度の活用などを踏まえながら、スポーツイベントの参加者拡大に努めます。 また、スポーツ団体と連携しながら、協働で市民の健康づくりを図るイベントの開催を検討します。		